

大館市木材利用促進計画の取組成果について

令和6年4月



秋田県大館市



目 次

- I 大館市木材利用促進計画の概要について
- II 令和3年度 of 取組成果概要・トピックス
- III 令和4年度 of 取組成果概要・トピックス
- IV 令和5年度 of 取組経過概要・トピックス
- V 木材利用促進に関する8つの施策の成果
- VI 市の施策を推進するための取組について
- VII 施策の到達点・目標の進捗状況について

<計画のポイント（設定した目標や考え方）>

○林野庁が展開する「木づかい運動」の趣旨に鑑み、産学官連携による「WOOD CHANGE（ウッド・チェンジ）」を推進し、木材利用に関する市民理解の醸成に努めるとともに、「植える、育てる、収穫する、上手に使う」の森林の持続的なサイクルを構築するため、令和3～5年度を計画期間とする「大館市木材利用促進計画」を策定。

▼市の木材の利用の促進に関する8つの施策▼

1 市が整備する公共建築物
の木造化及び内装木質化
の推進



5 木質資源の
多面的利用推進



2 公用備品等における
木製導入の推進



6 都市部等との連携
による木材利用推進



3 公共土木事業等に
おける木材利用の推進



7 木育の推進



4 住宅・非住宅への
木材利用の推進



8 「木の文化」を活かした
「木のおもてなし」の推進



II 令和3年度の取組成果概要・トピックス

<取組成果概要>

- 新型コロナウイルス感染症対策事業として、市内で伐採された樹木を材料とする木材の流通支援や木材製品の販路回復に必要な新たな取り組みや高付加価値商品の開発等を支援。
- 市産材等の住宅等への利用や木造住宅設計・施工の取り組みを支援する「大館市ウッド・チェンジ推進事業」を創設・開始し、住宅等の木造化・木質化を推進。
- 市民等へ木材利用等に関する取り組みの周知・普及を図ることを目的に、樹や木に関する情報発信として「教えてはちくん！木づかい通信」の発行を開始したほか、森林・林業・木材産業に関するオンラインセミナーである「WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ」の配信を開始。

<主なトピックス>

秋田スギ香料使用パンフレット



地元素材活用の秋田杉専用保護剤



▲「教えてはちくん！木づかい通信Vol.1」▲

▲「大館市木材製品販路回復支援事業」支援事例▲



▲「大館市ウッド・チェンジ推進事業」支援事例▲



▲「WOOD CHANGE! ODATE ウェビナーシリーズ」の配信▲

Ⅲ 令和4年度の取組成果概要・トピックス

＜取組成果概要＞

- 新たに整備した市公共施設の木造・木質化を図ったほか、東京2020オリパラ大会の「選手村ビレッジプラザ」で使用された木材の後利用や新たな木材加工技術の活用による内装木質化等を実施。
- 市産・木材製品のサプライチェーン構築に向けて、持続可能な森林経営がされている森林由来の木材であることを第三者機関が証明する国際認証制度「森林認証（SGEC-FM）」を大館市有林約2,296haで取得。
- 林業木材産業関係者で構成される「北鹿地域林業成長産業化協議会（旧：大館北秋田地域林業成長産業化協議会／事務局：市）」に、新たに建築・設計事業者等が加入し、市産材の供給・調達に関するネットワークを強化。
- 市の林業成長産業化に向けた取り組みについて各種顕彰制度において受賞。

＜主なトピックス＞



▲選手村ビレッジプラザ提供木材使用「大館市子どもの遊び場」▲

秋田スギDLT打合せブース

秋田スギDLT個室ブース



▲「DLT（Dowel Laminated Timber）」による木質空間創出▲



SGEC/31-22-1507



▲大館市有林における森林認証（SGEC-FM）の取得▲

第10回プラチナ大賞

東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」



▲顕彰制度（プラチナ大賞ほか）の表彰式▲

IV 令和5年度の取組経過概要・トピックス

<取組経過概要>

- 国の法改正（脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律）に伴い、「大館市木材利用基本方針」を改正し、**公共施設だけでなく民間施設も含めて木材利用促進を図る旨を明記。**
- 「選手村ビレッジプラザ」使用木材を活用した木製ベンチを渋谷区へ寄贈。ベンチはDLT加工により81台作成し、渋谷区役所をはじめ9つの区有施設（スポーツ関連施設や聖火リレー採火式会場となった施設）に設置。
- 森林認証（SGEC-FM）について市の単独認証（約2,296ha）から**北鹿地域林業成長産業化協議会へのグループ認証（4者、約3,142ha）へ移行。**また、**大館市有林由来の森林認証材を製品化（合板）した。**
- DLTによる市産秋田スギ等木製什器の開発や公共施設等の非住宅の木造・木質化の推進にむけた取組を実施。

<主なトピックス>



▲渋谷区へ寄贈したDLT製レガシーベンチと渋谷区への贈呈式▲

秋田スギDLT
パーティション秋田スギDLT
サインボード広葉樹DLTテーブル
(接合部に釘等不使用)

▲秋田スギや広葉樹を用いたDLT什器▲



▲大館市有林由来の秋田スギ森林認証材の生産と認証合板▲



▲北鹿林成協「非住宅木造・木質化推進WG」の開催▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策1>

<施策1：市が整備する公共建築物の木造化及び内装木質化の推進>

計画内容：公共建築物の施設整備は率先して木造・木質化を図ります。また、新たな建築資材として注目されているCLT等を公共建築物へ使用するなど、新たな木質部材を活用した構法の普及と定着を図ります。

主な成果：木造化) 駅舎公衆トイレ2件、消防車庫5件、駐輪場1件
木質化) 子育て支援施設1件

< 成果 ・ 実績 >

<令和3年度実績>

- ・扇田駅公衆トイレ<木造/3.1㎡使用>
- ・大館第21分団(土目内)消防車庫<木造/3.4㎡使用>
- ・比内第5分団(八木橋)消防車庫<木造/3.4㎡使用>

<令和4年度実績>

- ・下川沿駅公衆トイレ<木造/3.6㎡使用>
- ・大館第14分団(本宮)消防車庫<木造/3.4㎡使用>
- ・大館市子どもの遊び場<内装木質化/3.5㎡使用>

<令和5年度実績>

- ・J R大館駅駐輪場<木造/17.0㎡使用> ※R6年度以降供用開始
- ・大館第4分団(二ツ森)消防車庫<木造/3.4㎡使用>
- ・比内第6分団(羽立)消防車庫<木造/3.4㎡使用>

<令和6年度以降整備見込み>

- ・本庁舎外構整備工事
- ⇒バス待合所を工法としてCLT+鉄骨造で建設予定。
- ・大館市斎場建設事業
- ⇒現斎場の近隣に新斎場を建設予定。待合エリアは木造で計画。
- ・野遊びSDGsの推進事業
- ⇒五色湖周辺エリアの整備で木材利用による建物改修を予定。

●**成果総括** 計画期間中に完成した対象施設は低層建築物であり、木造化は比較的容易であったと思われる。令和6年度以降は市として初採用となるCLTを活用した建築物のほか、新斎場の整備が控えるなど、多くの市民が利用する施設の木造・木質化が計画されていることから、地域材利用による施設整備が期待される。

< 取組状況 >



▲扇田駅公衆トイレ▲



▲下川沿駅公衆トイレ▲



▲大館第12分団消防車庫▲



▲J R大館駅駐輪場▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策2>

<施策2：公用備品等における木製導入の推進>

計画内容： 公用調達（備品等）する場合には、木製品・木材由来物品等の積極的な利用を図ります。

主な成果： 飛沫感染防止パーティション、秋田スギ製ネームプレート、支障木活用によるソファ・ベンチ製作及び設置、秋田スギDLT打合せブース・DLT個室ブース、木製遊具・木製玩具、秋田スギDLT什器・広葉樹DLT什器、広葉樹打合せテーブル・イス 等

< 成 果 ・ 実 績 >

<令和3年度実績>

- ・飛沫感染防止パーティション：20台設置
- ・秋田スギ製ネームプレート：庁内管理職名（課長以上）作成
- ・石田ローズガーデン支障木（クリ）活用什器等：25台設置

<令和4年度実績>

- ・秋田スギDLT打合せブース：1基設置
- ・秋田スギDLT個室ブース（WEB会議用）：1基設置
- ・選手村ビレッジプラザ提供木材活用木製遊具：4種類製作

<令和5年度実績見込み>

- ・秋田スギDLTパーティション：8台
- ・秋田スギDLTサインボード：2台設置
- ・広葉樹DLTテーブル：1台設置
- ・広葉樹テーブル（クリ）：1台設置
- ・広葉樹スツール（ケヤキ）：4台設置
- ・秋田スギ製人口・世帯数表示板：1箇所設置

< 取 組 状 況 >

秋田スギ製・飛沫感染防止
パーティション



秋田スギDLT
打合せブース



秋田スギDLTサインボード
・パーティション



秋田スギ製
ネームプレート



秋田スギDLT
個室ブース（WEB用）



秋田スギ製
人口・世帯数表示板



広葉樹製
ソファ等什器



ビレッジプラザ
提供木材活用木製遊具



広葉樹
テーブル・スツール



●**成果総括** 地元の伝統工芸等の技術を活用した木製備品等を多く導入することができ、秋田スギのみならず、広葉樹を活用した什器等を導入するなど、多様な木材利用を市として発信することができた。また、支障木や再利用材の活用事例もあり、持続可能性やCO₂固定化の観点からもゼロカーボンシティに資する取組成果と史料する。

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策3>

<施策3：公共土木事業等における木材利用の推進>

計画内容：公共土木工事等における木材利用の拡大に努めます。また、国等における環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）に基づく特定調達物品に追加されたコンクリート型枠用合板等の仮設材料の利用を推進します。

主な成果：県営治山工事による残存型木製型枠使用、木製工事用看板、木質チップ歩道 等

< 成 果 ・ 実 績 >

<令和3年度実績>

- ・工事用看板間伐材利用：2課採用（土木課、下水道課）
 - ・県営治山工事残存型木製型枠：6箇所、338.6㎡使用
- ⇒内越山地区、小柄沢山地区、三哲山地区、外蛭沢地区、滝ノ沢地区、蛭沢A地区

<令和4年度実績>

- ・工事用看板間伐材利用：4課採用（林政課、土木課、水道課、下水道課）
 - ・県営治山工事残存型木製型枠：7箇所、119.4㎡使用
- ⇒内越山地区、小柄沢山地区、三哲山地区、滝ノ沢地区、中岱地区、中山沢1地区、中山沢2地区
- ・芝谷地湿原森の小径整備事業
- ⇒木質チップ舗装120m、ウッドデッキ整備52.6m

<令和5年度実績見込み>

- ・工事用看板間伐材利用：2課採用（実績調査中）
 - ・県営治山工事残存型木製型枠：4箇所、67.9㎡使用
- ⇒滝ノ沢地区、中山沢1地区、中山沢2地区、スバリ合1地区

●**成果総括**）県営治山事業への継続的な要望等により、残存型木製型枠を使用した治山ダムを整備することができ、防災×木材利用の相乗効果を実現している。一方で、治山ダム以外の土木分野での木材利用事例が僅かであるため、今後は研究機関等との連携による土木分野での需要創出が期待される。

< 取 組 状 況 >



▲小柄沢山地区 (R4) ▲



▲三哲山地区 (R4) ▲



▲中山沢1地区 (R5) ▲



▲中山沢2地区 (R5) ▲



▲ウッドデッキ (R4) ▲



▲木質チップ舗装 (R4) ▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策4>

<施策4：住宅・非住宅への木材利用の推進>

計画内容：民間部門での地元産材の需要を拡大するため、新築住宅への利用を支援します。また、福祉施設、子育て施設、交流施設などの非住宅分野での木造・木質化を支援します。

主な成果：大館市ウッドチェンジ推進事業：68件支援、683㎡使用、大館市ウッドチェンジ推進奨励金：88件支援、大館市木材製品販路回復支援事業等による木材製品開発 12件支援 等

< 成果 ・ 実績 >

<令和3年度実績>

- ・大館市ウッドチェンジ推進事業：27件支援、284.3㎡使用
 - ・大館市ウッドチェンジ推進奨励金：36件支援
 - ・大館市木材製品販路回復支援事業：5件支援
- ⇒CLT・JAS取得、秋田杉桶樽海外輸出、パンフレット作成 等

<令和4年度実績>

- ・大館市ウッドチェンジ推進事業：22件支援、184.6㎡使用
 - ・大館市ウッドチェンジ推進奨励金：28件支援
 - ・大館市木材製品販路回復支援事業：2件支援
- ⇒秋田杉桶樽海外輸出販路拡大、バレルサウナ製作

<令和5年度実績見込み>

- ・大館市ウッドチェンジ推進事業：19件支援、214.1㎡使用
 - ・大館市ウッドチェンジ推進奨励金：24件支援
 - ・大館市企業連携型木材製品販路拡大事業：5件支援
- ⇒大館曲げわっぱ新商品開発及び販路拡大、DLT什器開発、おが屑風呂開発、秋田スギ活用によるフラッシュドア開発 等

●成果総括 住宅の木造化に係る支援策の実施により地域材需要創出に一定の成果をもたらすことができた。今後は民間施設等の非住宅分野での需要開拓が望まれる。その他、新型コロナウイルス対策や物価高騰対策等の一環で木材製品開発支援策を実施し、各事業者の創意工夫による製品開発を支援することができた。

< 取組状況 >



▲大館市ウッドチェンジ推進事業 支援事例▲

CLTプレス機



秋田スギフラッシュドア開発

秋田杉桶樽海外輸出



おが屑風呂試作

秋田スギバレルサウナ



枝豆容器・曲げわっぱ開発



▲大館市木材製品販路回復支援事業等による支援事例▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策5>

<施策5：木質資源の多面的利用推進>

計画内容：ペレットストーブやチップボイラーの導入や木材・プラスチック再生複合材等の活用により、木質資源の多面的利用を促進します。

主な成果：市公共施設ペレット使用量958 t（R3～4年度実績）、市ペレットストーブ設置費補助金事業6件支援、林野庁補助事業「地域内エコシステム モデル構築事業」採択・事業実施（R3～5年度） 等

< 成 果 ・ 実 績 >

<令和3年度実績>

- ・市公共施設ペレット使用量：478 t
 - ・市ペレットストーブ設置費補助金事業：2件支援
 - ・地域内エコシステムモデル構築事業
- ⇒木質バイオマスボイラー導入基準案の作成 等

<令和4年度実績>

- ・市公共施設ペレット使用量：480 t
 - ・市ペレットストーブ設置費補助金事業：3件支援
 - ・地域内エコシステムモデル構築事業
- ⇒準乾燥チップ生産に関する調査研究・視察 等

<令和5年度実績見込み>

- ・市公共施設ペレット使用量：435 t
 - ・市ペレットストーブ設置費補助金事業：1件支援
 - ・大館市木材利用基本方針の改正
- ⇒木質バイオマスボイラー導入基準の設定 等
- ・地域内エコシステムモデル構築事業
- ⇒事業成果の水平展開に向けた効果測定ツール作成 等

●**成果総括**）ゼロカーボンシティ宣言の下、木質バイオマスエネルギーの活用について、市が率先した取り組みが期待されている中、林野庁補助事業の取り組みにより、地域内で木質バイオマスを有効活用していく仕組みづくりを行った。今後は木質バイオマスの利活用に関する効果検証を行い、有用性を発信していくことが求められる。

< 取 組 状 況 >



▲庁内打合せ会議▲



▲木質チップ生産工場見学▲

経 済 性	
現状	
化石燃料使用量	50,000 ℓ
化石燃料代	5,000千円
電気代	154千円
維持管理費等	154千円
計	5,308千円
木質ボイラー導入後	
木質燃料代	2,508千円
電気代	154千円
維持管理費等	154千円
灰処理費	17千円
化石燃料代	500千円
計	3,333千円
経済性の試算結果 (ランニングコスト削減量) △ 1,975千円	

環 境 性	
現状	
化石燃料使用量	50,000 ℓ
CO2排出量	124.50 t-CO2
木質ボイラー導入後	
化石燃料使用量	5,000 ℓ
CO2排出量	12.45 t-CO2
環境性の試算結果 (CO2削減量) 112.05 t-CO2	

簡易試算結果による判定結果

適

試算の結果、木質エネルギーの導入による十分なメリットが期待できます。

▲導入基準による簡易試算ツール判定結果▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 < 施策6 >

< 施策6：都市部等との連携による木材利用推進 >

計画内容：木材産業事業者が、都市部の実需者・消費者の求める品質・性能の確かな地元産材を供給できるよう、サプライチェーンの強靭化を図ります。また、トップセールス等により、地元産材の新たな販路開拓や販売促進を図ります。

主な成果：大館市木材サプライチェーン強靭化事業等による木材流通支援丸太29千m³、製品23千m³支援、渋谷区公共施設や民間施設における大館市産材の活用、秋田スギ等の地域材製品の出展活動、森林認証取得による販路拡大 等

< 成果・実績 >

< 令和3年度実績 >

- ・サプライチェーン強靭化事業 丸太15千m³、製品6千m³支援
- ・清水建設(株)東北支店(宮城県) 市産秋田スギLVL※内装材
- ※Laminated Veneer Lumber(単板積層材)の略
- ・渋谷区子育てネウボラ(東京都) 市産秋田スギフローリング

< 令和4年度実績 >

- ・サプライチェーン強靭化事業 丸太14千m³、製品6千m³支援
- ・秋田スギDLT等製品の展示会出展 3展示会出展
- ・大館市有林約2,296haにおいて森林認証(SGEC-FM)を取得

< 令和5年度実績見込み >

- ・木材製品流通促進緊急対策 製品11千m³支援
- ・渋谷区へ選手村ビレッジプラザ提供木材使用DLTベンチ寄贈
⇒渋谷区役所や区有スポーツ施設等へ81台設置
- ・森林認証を市単独からグループ(4者、約3,142ha)へ移行
⇒市有林由来の森林認証合板が市場に登場
- ・渋谷区SCC千駄ヶ谷コミュニティセンター(東京都)
市産秋田スギルーバー材使用

●成果総括 防災協定及び交流促進協定を締結している渋谷区への地域材供給事例を創出したほか、都市部企業との連携による新たな木材加工技術による商品開発及び販売促進を実施することができた。森林認証については取得から約1年で市有林由来の製品を市場に登場させることができた。今後の安定供給への期待に応じていく必要がある。

< 取組状況 >



▲渋谷区子育てネウボラ▲



▲清水建設(株)東北支店▲



▲展示会(東京ビッグサイト)▲



▲渋谷区SCC▲



環境配慮型商品

※ 自然環境に配慮した製品を「J-GREEN」として認証し、提供いたします。
 緑「J-GREEN」は、事業者が提供する上で、人工環境にやさしい商品づくりに貢献しています。



持続可能な森林経営のために

SGEC 認証 針葉樹構造用合板

ジャパン森林緑化推進財団が主催する「SGEC」は、日本でSGECの認定を受けるには厳格な審査が必要です。
 環境保護と資源の有効活用を旨とし、持続可能な森林経営を推進することを目的とし、認定された事業者のみが「J-GREEN」の認定を受け、製品を供給することができます。認定された事業者は、SGECの認定を受け、持続可能な森林経営を実現しています。




規格 針葉樹	SGEC 番号 000001	SGEC 業種 針葉樹材 / 同梱木材 / 同梱
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	
規格 針葉樹	0000/2024 0000 0000	



ジャパン建材株式会社

〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-2-1 電話 03-5561-1111

▲森林認証合板製品パンフ▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策7>

<施策7：木育の推進>

計画内容：子供から大人まで木とふれあう機会を設けるため、イベント等で木育ひろばの設置等を実施するほか、学校での林業・木材産業に関する学習及び体験活動、NPO団体等が実施する木育活動などを支援します。また、木の良さや木育の意義を伝えることができる人材を養成します。

主な成果：木製誕生祝い品贈呈883個、木育インストラクター81名養成、木育キャラバン5,582名参加 等

< 成 果 ・ 実 績 >

<令和3年度実績>

- ・木製誕生祝い品贈呈 345個
- ・木育インストラクター養成講座 38人受講
- ・木育キャラバン開催 2,112名参加
- ・大館曲げわっぱ製作体験／学校給食事業 485名参加
- ・その他木育関連イベント等実施

<令和4年度実績>

- ・木製誕生祝い品贈呈 307個
- ・木育インストラクター養成講座 25人受講
- ・木育キャラバン開催 1,748名参加
- ・大館曲げわっぱ製作体験／学校給食事業 499名参加
- ・その他木育関連イベント等実施

<令和5年度実績見込み>

- ・木製誕生祝い品贈呈 231個（令和6年3月18日時点）
- ・木育インストラクター養成講座 18人受講
- ・木育キャラバン開催 1,722名参加
- ・大館曲げわっぱ製作体験／学校給食事業 455名参加
- ・その他木育関連イベント等実施

●**成果総括**）庁内各課での積極的な木育事業の展開により、ウッドスタート宣言市町村としての取り組みを発信することができた。また、市民レベルでの木育活動も充実しており関係者の意欲の高さが伺えた。一方で、木育の実施が木材需要への直接的な効果をもたらしているかの検証は困難であり、事業の効果測定手法等を検討する必要がある。

< 取 組 状 況 >



▲秋田スギ製誕生祝い品▲



▲木育インストラクター養成講座▲



▲木育キャラバン▲



▲大館曲げわっぱ製作体験▲



▲木育玩具・木育空間の導入や植樹活動▲

V 木材利用促進に関する8つの施策の成果 <施策8>

<施策8：「木の文化」を活かした「木のおもてなし」の推進>

計画内容：本市が培ってきた「木の文化」を活かし、観光客等へ木を使った建築や製品、サービス・体験の価値の向上を図る「木のおもてなし」の取組みを推進します。

主な成果：「渋谷・大館交流の絆事業」による渋谷区児童来市37名参加、秋田県立大学現地見学実習受け入れ30名参加、都内企業等ビジネスマッチングツアー受け入れ 12社 等

< 成 果 ・ 実 績 >

<令和3年度実績>

※新型コロナウイルスの影響等により実績無し

<令和4年度実績>

- ・渋谷・大館交流の絆事業 17名参加
⇒曲げわっぱ製作体験・桜の植樹を行い、森林や木材に関する体験プログラム等を実施
- ・秋田県立大学現地見学実習受け入れ 30名参加
⇒生物環境科学科の見学実習として、同科の2年生および教員が矢立峠・桜櫓館の見学のほか、曲げわっぱ製作を体験
- ・都内企業等ビジネスマッチングツアー受け入れ 8社
⇒木材加工工場や木造建築物等を見学

<令和5年度実績見込み>

- ・渋谷・大館交流の絆事業 20名参加
⇒令和4年度の体験プログラムに加え、昨年度植樹した桜の生育を維持させるための保育作業を実施
- ・都内企業等ビジネスマッチングツアー受け入れ 4社
⇒木材加工工場や木質バイオマス関連施設等を見学

●**成果総括** 新型コロナウイルスの影響等により当初予定していたインバウンド向けのプログラムは中断となったが、渋谷区の児童生徒との交流事業や県内大学の見学実習受け入れ等で市の「木の文化」を発信した。また、林業木材分野でのビジネスマッチングを目指す企業等の往来が増加しており、今後の関係人口の増大が期待される。

< 取 組 状 況 >



▲渋谷・大館交流の絆事業（植樹体験・曲げわっぱ製作体験）▲



▲秋田県立大学現地見学実習（矢立峠散策・曲げわっぱ製品体験）▲



▲都内企業等ビジネスマッチングツアー▲

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

1 大館市木材利用推進会議の開催

<ポイント/計画事項>

○計画に基づく各施策の実施に当たっては、各部局の関連施策との連携を図るため、「大館市木材利用推進会議設置要綱」に基づく、推進会議及び部会を開催し、木材利用に関する各施策について協議を行う機会を設け、各施策の検証を行うとともに、必要な措置を講ずるものとします。

< 成果 ・ 実績 >

<令和3年度実績>

- 令和3年10月8日 推進会議開催
 - ・計画の取組状況、令和4年度以降の公共建築物の整備予定 等
- 令和4年2月28日 部会開催（書面会議）
 - ・「木質バイオマス利用施設導入基準」の設定について

<令和4年度実績>

- 令和5年3月24日 推進会議開催
 - ・計画の取組状況、市木材利用基本方針の改正素案 等

<令和5年度実績見込み>

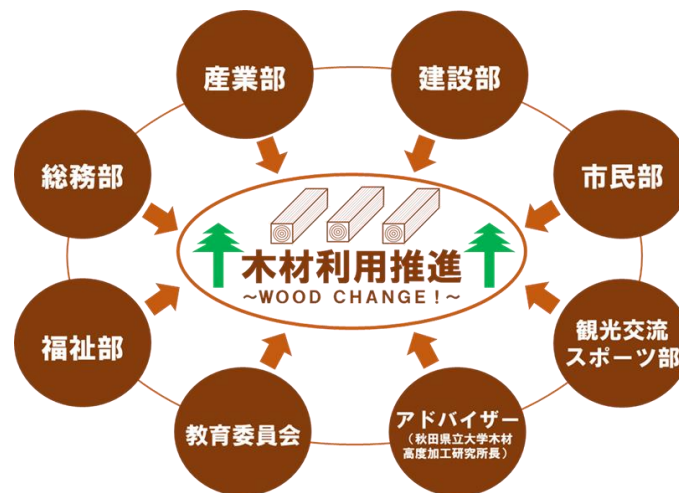
- 令和5年4月13日 部会開催（書面会議）
 - ・大館市木材利用基本方針の改正案について
- 令和5年5月18日 推進会議開催（書面会議）
 - ・大館市木材利用基本方針の改正案について
- 令和6年3月25日 推進会議開催
 - ・大館市木材利用促進計画の取組成果
 - ・新たな大館市木材利用促進計画の素案概要 等

●**成果総括**）推進会議等では本計画の進捗状況報告のほか、新たな施設整備の木造・木質化に関する意見聴取を行うなど、庁内での合意形成の場としての機能を発揮することができた。また、各会議の提出資料（一部除く）や会議録は市ホームページで公開しており、市民や事業者等へ向けて積極的な情報公開を行っている。

< 取 組 状 況 >



▲令和3年度 大館市木材利用推進会議（令和3年10月8日）▲



▲大館市木材利用推進会議イメージ図▲

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

2 地元産材の利用推進に向けた取り組み

(1) 地元産材の供給及び調達に関するネットワークづくり

○地元産材の活用に向けて、製材工場等の供給側と住宅建築業者等の利用側のネットワークづくりを行うとともに、木材製品に関する品質や価格等に関する情報の共有化を図ります。

< 成果・実績 >

< 令和3年度実績 >

- 秋田スギ製はちくんコースター贈呈 34社
- ⇒秋田県立比内支援学校生徒・製作のコースターを企業等担当者へ贈呈し、贈呈した方の写真を学校へ提供する取組。47都道府県のうち27都道府県の関係者へ贈呈。(令和5年3月現在)
- 都内企業等訪問 延べ23社 ※重複あり
- プラチナ構想ネットワーク入会(自治体会員)
- 日本ウッドデザイン協会入会(特別会員)

< 令和4年度実績 >

- 秋田スギ製はちくんコースター贈呈 67社
- 都内企業等訪問 延べ68社 ※重複あり
- 日本ウッドデザイン協会会員との連携等事例 7事例
- プラチナ森林産業イニシアティブ加入

< 令和5年度実績見込み >

- 秋田スギ製はちくんコースター贈呈 48社
- 都内企業等訪問 延べ83社 ※重複あり
- 日本ウッドデザイン協会会員との連携等事例 16事例

●**成果総括** 木材利用関係団体等への加入を契機に都市部企業等とのネットワークづくりが加速しており、市の各種事業に大きな効果をもたらしている。今後も都市部企業等との関係性構築を深めることで、市内事業者との協業化や木材調達等のハブ機能の役割を担い、都市部・地方連携によるプロジェクト創出や木材利用促進が期待される。

< 取組状況 >



▲「はちくんコースター」でひろがるネットワーク▲

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

2 地元産材の利用推進に向けた取り組み

(2) 公共・民間の建築物への地元産材の積極的活用に向けた取り組み

○地元産材の利用の具体的な事例や建築コスト、木材の調達方法に関する情報の収集・分析を行うとともに、地元産材の利用に関するマニュアル等の作成や地元産材を活用した建築物を提案できる人材を育成するなどの取り組みを展開します。

< 成果・実績 >

< 令和3年度実績 >

- 研修会等参加による情報収集活動 12回
- 先進地視察研修 宮城県西都市ほか（令和3年9月27～29日）

< 令和4年度実績 >

- 研修会等参加による情報収集活動 9回
- 先進地視察研修 北海道白老町ほか（令和4年8月3～5日）
- 群馬県渋川市ほか（令和4年12月21～22日）
- 宮城県登米市ほか（令和5年3月13～14日）

< 令和5年度実績見込み >

- 研修会等参加による情報収集活動 12回
- 先進地視察研修 宮城県大崎市（令和5年6月19日）
- 群馬県館林市（令和6年1月17日）
- 地域における非住宅木造建築物整備推進事業 採択
⇒「非住宅の木造・木質化に向けた“地産地消”の体制構築」をテーマに、公共施設等の木造・木質化に関する課題の整理や取り組み案の立案のほか若手設計者向けの検討会等を実施。成果物として木材事業者マップや関連パンフレット等を作成。

●**成果総括** 学識経験者等の講演会や研修会に積極的に参加したほか、林業木材産業分野で先進的な取り組みを展開する地域への視察等を行う等の事例研究を行った。また、林野庁補助の採択を受け、地域材の地産地消に向けた体制づくりや課題の整理を進めており、公共施設をはじめとする非住宅の木造・木質化が期待される。

< 取組状況 >

中国木材(株)日向工場
(宮城県日向市)大崎市鳴子総合支所
(宮城県大崎市)昭和木材(株)旭川工場
(北海道東川町)

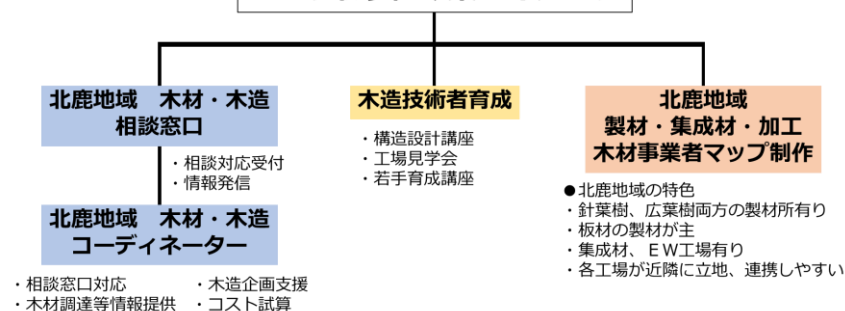
ソウゾウの森大会議

登米町森林組合
(宮城県登米市)

CLT活用等に関する研修会



WGの取り組み案・イメージ



▲非住宅の木造・木質化に向けた取組案・イメージ▲

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

2 地元産材の利用推進に向けた取り組み

(3) 市民等への周知・普及

○市民や事業者に対し、木材利用の重要性や基本方針についての理解の醸成を図るため、本計画に基づく施策について広く情報発信及び普及啓発活動等を講ずるものとします。

< 成果・実績 >

<令和3年度実績>

- 教えてはちくん！木づかい通信の発行 Vol.1～12発行
- WOOD CHANGE! ODATEウェビナーシリーズ 8回配信
- 大館市森林づくり講演会（令和4年2月5日）開催
- ウッドデザイン賞2021受賞（ソーシャルデザイン部門）
- 講座・報告会等における取り組み発信・普及啓発 12回

<令和4年度実績>

- 教えてはちくん！木づかい通信の発行 Vol.13～24発行
- WOOD CHANGE! ODATEウェビナーシリーズ 11回配信
- 大館市木材利用促進講演会（令和4年10月8日）開催
- ウッドデザイン賞2022受賞（ソーシャルデザイン部門）
- 第10回プラチナ大賞 優秀賞（林業再生賞）受賞
- 東北農政局「ディスカバー農山漁村の宝」選定
- 講座・報告会等における取り組み発信・普及啓発 16回

<令和5年度実績見込み>

- 教えてはちくん！木づかい通信の発行 Vol.25～26発行
- WOOD CHANGE! ODATEウェビナーシリーズ 6回配信
- 大館市木材利用促進講演会（令和5年10月8日）開催
- ウッドデザイン賞2023受賞（ソーシャルデザイン部門ほか）
- 第11回プラチナ大賞 奨励賞 受賞
- 第4回ウッドファーストあきた木造・木質化建築賞 受賞
- 講座・報告会等における取り組み発信・普及啓発 6回

< 取組状況 >



▲WEBセミナーや樹や木材に関する知識等を発信▲



▲市民向け出前講座や講演会・フォーラム等での取組事例発信▲

●**成果総括**）顕彰制度の受賞により対外的な評価を得ているほか、ウェビナーシリーズの3カ年分のアンケート結果では、回答者延べ234名の約9割が「満足（62%）」、「やや満足（27%）」であり、ニーズが高いことが伺える。一方、参加申込者延べ664名のうち、88%（584名）が市外者であり、市内参加者の参加率向上が課題となった。

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

3 市の施策の検証及び実績の公表

<ポイント/計画事項>

○本計画に基づく施策の成果は毎年度速やかに検証を行います。この検証に当たっては、必要に応じてアドバイザー等の意見を聴くものとします。また、その実績について市ホームページ等で、①木材利用基本方針の木造化・木質化基準により木材利用をすべき公共建築物であるか、②木材利用をすべき公共建築物について事業実施した結果、③木材利用をすべき公共建築物に該当しなかったが木材利用したもの、を公表します。

No.	施設名	建設状況	公表事項①	公表事項②	公表事項③	結果等
1	扇田駅公衆トイレ	R3完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：無）、3.1㎡使用
2	大館第21分団（土目内）消防車庫	R3完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.4㎡使用
3	比内第5分団（八木橋）消防車庫	R3完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.4㎡使用
4	大館駅前駐輪場 ※R6以降供用開始予定	R5完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：無）、17.0㎡使用※暫定値
5	野遊びSDGs推進事業宿泊施設	実施中	対象	—	—	サニタリー棟 木造1階（内装制限：無）
6	大館第14分団（本宮）消防車庫	R4完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.4㎡使用
7	大館市し尿受入センター	実施中	対象	—	—	RC造2階（内装制限：有）、内装木質化予定
8	大館第4分団（二ツ森）消防車庫	R5完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.4㎡使用
9	比内第6分団（羽立）消防車庫	R5完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.4㎡使用
10	消防署北分署庁舎	実施中	対象	未達成	—	RC造2階（内装制限：有）、木造取り止め
11	大館第9分団（餅田）消防車庫	計画中	対象	—	—	木造1階（内装制限：有）
12	大館市斎場	実施中	対象	—	—	RC造1階（内装制限：有）、一部木造予定
13	大館市子どもの遊び場（休憩室等）	R4完成	対象	達成	—	鉄骨造1階（内装制限：有）、内装木質化3.5㎡使用
14	下川沿公衆トイレ	R4完成	対象	達成	—	木造1階（内装制限：有）、3.6㎡

●**成果総括**）計画期間中に完成した施設は全て低層（1階）の建築物であり、木造・木質化を達成することができた。令和6年度以降に計画している施設についても木造・木質化が予定されており、地域の林業木材産業関係者からの地域材利用を期待する声が多いことから、継続した取り組みが望まれる。一方、木造取り止めとなった施設については、当初木造化を検討していたものの、防災拠点として機能継続性の確保やコスト高等の理由からRC造に変更している。適切な設計と確かな性能を持つ木材・木質材料等の使用に基づく施工によって、耐震性や断熱性等においてRC造に劣らない機能を確保できる点は他地域の実践例などで報告されており、今後はこれらの情報共有が必要と考えられる。

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

4 産学官連携

<ポイント/計画事項>

○高度化・多様化する木材の利用への的確に対応するため、研究機関、木材関係者、設計者や施工者など各分野の関係者による連携体制を構築するものとします。

< 成 果 ・ 実 績 >

■ 成果：北鹿地域林業成長産業化協議会での産学官連携の拡大



おおだてきたあきた

大館北秋田地域
林業成長産業化協議会



改名！



ほくろく

北鹿地域
林業成長産業化協議会

35会員

<平成29年度～令和3年度>

- ・森林組合 (1)
- ・素材生産事業者 (12)
- ・苗木生産者 (2)
- ・製材・加工事業者 (8)
- ・木質バイオマス事業者 (3)
- ・木材流通事業者 (1)
- ・学識経験者 (1)
- ・行政機関 (7)

増加！



76会員

<令和4年度>

- ・森林組合 (1)
- ・素材生産事業者 (13)
- ・苗木生産者 (7)
- ・製材・加工事業者 (7)
- ・木質バイオマス事業者 (4)
- ・木材流通事業者 (2)
- ・学識経験者 (1)
- ・行政機関 (7)
- ・教育機関 (1)
- ・住宅事業者 (14)
- ・建築設計関係者 (12)
- ・家具・工芸事業者 (5)
- ・IT・ICT関連事業者 (2)

増加！



97会員

<令和5年度～>
令和6年3月現在

- ・森林組合 (2)
- ・林業経営者 (17)
- ・苗木生産者 (9)
- ・木材加工事業者 (13)
- ・木質バイオマス事業者 (4)
- ・木材流通事業者 (4)
- ・学識経験者 (1)
- ・行政機関 (7)
- ・教育機関 (1)
- ・住宅・建築事業者 (12)
- ・設計事業者関係者 (13)
- ・家具・工芸事業者 (6)
- ・IT・ICT関連事業者 (2)
- ・精油生産者 (1)
- ・金融機関 (5)

●**成果総括**）市が事務局を担う「北鹿地域林業成長産業化協議会」では、地域の林業・木材産業の成長産業化の実現に向けた活動を行っており、行政機関（国有林・秋田県・市町）や研究機関に加え、川上（森林組合・素材生産・苗木生産等）・川中（木材加工・木材流通・家具・伝統的工芸品等）・川下（住宅事業・建築設計等）に至る各分野の事業者で組成している。

VI 市の施策を推進するための取り組みについて

4 産学官連携

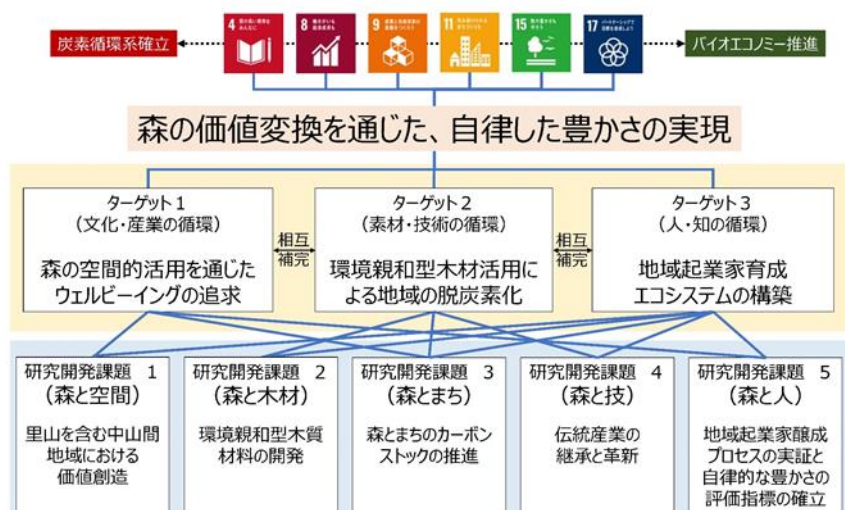
<ポイント/計画事項>

○高度化・多様化する木材の利用への的確に対応するため、研究機関、木材関係者、設計者や施工者など各分野の関係者による連携体制を構築するものとします。

< 成果 ・ 実績 >

■ 成果：秋田県立大学等との連携による共同研究事業の開始（令和6年度～）

地域拠点ビジョン・ターゲット・研究開発課題



▲ 取り組みのビジョン、3つのターゲットと5つの研究開発課題 ▲

参画メンバー



▲ 3つの公立大学を中心とした参画メンバー ▲

● **成果総括** 秋田県立大学を代表機関として申請した、国立研究開発法人科学技術振興機構 研究成果展開事業「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) 地域共創分野 本格型」が令和6年度本格型昇格プロジェクトとして採択。当該事業には本市も参画機関として参加しており、令和6年4月より秋田県立大学をはじめとした各参画機関と連携し、各種研究開発課題に取り組む。

VII 施策の到達点・目標の達成状況について

目標項目	到達点・目標値	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	結果等
①計画対象公共施設の木造率及び木質化率	木造率100%、内装等の木質化率100%	木造：100% (3/3施設) 内装木質化：実績無	木造：100% (2/2施設) 内装木質化：100% (1/1施設)	木造：100% (3/3施設) 内装木質化：実績無	達成 【木造：100% (5/5施設)、内装木質化：100% (1/1施設)】
②市産木材使用量割合	計画対象公共施設1施設あたりの木材使用量の50%以上	市産材使用未把握	市産材使用未把握	市産材使用未把握	未達成 【市産材調達状況等未把握】
③市産原木入荷割合	市内製材所における原木入荷量に占める入荷割合50%以上	約36% (入荷量96千m ³ うち市産材35千m ³)	約44% (入荷量100千m ³ うち市産材44千m ³)	約48% (入荷量92千m ³ うち市産材44千m ³)	未達成 【約43%：入荷量92千m ³ うち市産材44千m ³ 】
④二酸化炭素固定量の増加	計画期間満了時の二酸化炭素固定量316t-CO ₂ 以上(木材使用量換算約550m ³)	335t-CO ₂ /年 (583m ³)	259t-CO ₂ /年 (450m ³)	176t-CO ₂ /年 (306m ³) ※見込み数量	達成見込み 【累計770t-CO ₂ /年(1,339m ³)】
⑤二酸化炭素削減量の増加	計画期間中の二酸化炭素削減量3カ年平均420t-CO ₂ /年以上(ペレット使用量換算約310t/年)	649t-CO ₂ /年 (478t)	651t-CO ₂ /年 (480t)	499t-CO ₂ /年 (368t) ※2月末分まで	達成見込み 【平均599t-CO ₂ /年(1,326m ³)】
⑥木育インストラクターの人数	木育インストラクター養成者数160人以上	105人(累計)	130人(累計)	148人(累計)	未達成 【達成度92%】

●**成果総括** 掲げた6つの目標のうち3つが未達成となったが、②原木入荷割合や⑥木育インストラクター養成者数については数値が上昇している点や目標に対する達成度から、一定の施策効果があったものと考えられる。一方、整備された公共施設における②市産木材使用量割合については、生産地特定が困難である等の理由から市産材の使用が把握できておらず、未達成となった。使用木材の伐採地からのトレーサビリティの確認は、複雑な流通経路故に容易ではないものの、市の木材利用基本方針の遵守のみならず、国において改正が予定されている「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」において、木材の合法性の確認の義務付けが開始されるなど、調達する木材の出所を確認することが求められる。コストダウンのみを志向した公共調達は、税収の市外流出を招く恐れがあるため、本事案を踏まえ対策を検討する必要がある。公共建築物整備は市民の付託により進められるものであり、市民の理解を得る必要があることから、今後の建築物整備については、森林資源の循環利用や地域経済への貢献度のほか、木材利用による脱炭素化などゼロカーボンシティ宣言自治体としての対応が期待される。